

第16回独立行政法人農林漁業信用基金農業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和5年2月20日(月) 13時00分～14時30分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室 (Web 開催)

2 出席者

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、水上委員以外の委員及びオブザーバーの田中財務省大臣官房政策金融課課長補佐はウェブ会議形式での参加であった。

(1) 運営委員

出 資 者：岸田委員、工藤委員、藤原委員、三井委員

学識経験者：平田委員、前田委員、水上委員、村田委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

(2) 信用基金

今井理事長、深水副理事長、北村総括理事、北理事

(3) オブザーバー

丸山農林水産省経営局金融調整課課長補佐

田中財務省大臣官房政策金融課課長補佐

3 提出議案

(1) 審議事項

- ① 第5期中期計画(案)について
- ② 令和5年度年度計画(案)について

(2) 報告事項

- ① 第5期中期目標(案)の概要について
- ② 農業信用保険料率算定委員会の結果について
- ③ 農業信用保険業務運営の検証委員会の結果について

(3) 情報提供事項

令和4年度の農業信用保険業務の概況分析

(4) その他

なし。

4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)の議案について信用基金から説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。

また、信用基金から上記3(2)に従って報告、(3)に沿って情報提供がなされ、その後、農業法人を営む3委員から直近の現場の状況等について情報提供がなされた。運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

【意見等】

(1) 審議事項

(質疑なし)

(2) 報告事項

(質疑なし)

(3) その他(学識経験者委員からの現況報告)

- 稲作経営を行っているが、ここ10年～15年で高齢化が進行・加速しており、経営形態の法人化が進んでいる。その中で、個人で農業経営を行っていたときには経費として認識していなかった人件費が経営の課題となっていることも多く、ここ数年の社会情勢の変化や元来経営基盤が脆弱であったことも相まって資金繰りが厳しくなっているということは現場でも感じられる。

金融調整課課長補佐より、農業のスマート化やグリーン化という新しい経営課題をプラスに捉えられるような経営の転換が必要という話があったが、資金繰りが厳しくなっている情勢の中でも、前向きなアイデアを持つ経営体をうまく支援できるような仕組みをつくってもらえればと思う。

また、先ほど料率算定委員会の結果に関する報告の中で、銀行等案件がJA系統案件よりも事故率が高いという話があったが、JA系統とのやりとりがうまくいかないケースも多いことからすると、銀行等での融資が増えるということは現場において非常に重要である。その点でも融資機関に対する普及推進等を行っていただき、農業をより良い方向に進めてもらいたい。

- 養豚や畑作、飼料作物栽培を行っているが、飼料費の高騰や人材確保に大変危機感を持っている。飼料費が1.5倍以上に上がっているにもかかわらず、周辺の工場との人材確保の競争のために基本給を上げる決断をしなければならない状況になっている。

そういった状況の中で地銀等からの融資が大変心強いものとなっているので、銀行等がさらに農業についての知見を深められるよう、またJA系統も含め、リスクをどう軽減するか等のサポートを確立して欲しい。

- 都市近郊で農業経営をする中で、現状では、農地がどんどん自分のところに集約されてしまっている。規模が大きくなるとそれだけで利益が出るわけでもなく、その分リスクがつきまってくる状況で、自分自身もどれくらいの規模で経営していくべきかわからなくなっており、一旦立ち止まって、いろいろな人に相談をしているところ。また、肥料費高騰の影響もあり、それまで利益が出ていた部分が圧縮されており、経営拡大により経費も増加しているので、この2～3年が勝負だと感じている。

以上